

平成22年11月18日
於
府中市立教育センター

平成22年第11回

府中市教育委員会定例会会議録

府中市教育委員会

平成22年第11回府中市教育委員会定例会会議録

- 1 開 会 平成22年11月18日(木)
午後1時30分
閉 会 平成22年11月18日(木)
午後2時28分
- 2 会議録署名員
委 員 谷 合 隆 一
委 員 崎 山 弘
- 3 出席委員
委員長 久 芳 美恵子 委員長職務代理者 崎 山 弘
委 員 谷 合 隆 一 委 員 北 島 章 雄
教育長 糸 満 純一郎
- 4 欠席委員
な し
- 5 出席説明員
教育部長 高 橋 脩 二 文化スポーツ部長 齋 田 文 雄
教育部参事 田 中 陽 子 文化振興課長 英 太 郎
兼学務保健課長 兼文化財担当主幹
教育部副参事 小 椋 孝 生涯学習スポーツ課長 澁 谷 智
兼指導室長 図書館長補佐 坪 井 茂 美
総務課長 吉 野 寿 一 美術館副館長 石 井 順 子
総務課長補佐 月 岡 敏 浩
兼学校耐震化等推進担当副主幹
学務保健課長補佐 中 村 孝 一
給食担当副主幹 須 恵 正 之
指導室長補佐 桑 田 浩
指導室副主幹 新 藤 純 也
統括指導主事 金 子 真 吾
指導主事 長 井 満 敏
指導主事 国 富 尊
- 6 教育委員会事務局出席者
総務課係長 田 中 啓 信
総務課主任 山 本 正 芳

議 事 日 程

第1 会議録署名員選定について

第2 会期決定について

第3 議案

第27号議案

平成22年度学校薬剤師の変更について

第4 報告・連絡

- (1) 平成22年度八ヶ岳移動教室実施報告について
- (2) 平成22年度八ヶ岳自然教室実施報告について
- (3) 平成23年度社会教育施設の臨時休館日等について
- (4) 企画展「アートサイト府中2010 いきるちから」の開催について

第5 その他

第6 教育委員報告

午後1時30分開会

○委員長（久芳美恵子君） ただいまより、平成22年第11回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

_____ ◇ _____

○委員長（久芳美恵子君） 本日の会議録署名員は、谷合委員と崎山委員にお願いします。

_____ ◇ _____

○委員長（久芳美恵子君） 会期は本日1日といたします。

_____ ◇ _____

○委員長（久芳美恵子君） 本日は、傍聴希望者がおりませんので、すぐに議案の審議に入らせていただきます。

_____ ◇ _____

◎第27号議案 平成22年度学校薬剤師の変更について

○委員長（久芳美恵子君） 第27号議案の朗読をお願いいたします。

（事務局朗読）

○委員長（久芳美恵子君） 説明をお願いいたします。

○学務保健課長補佐（中村孝一君） それでは第27号議案について、お手元の資料に基づきご説明申しあげます。

第一小学校の薬剤師、伊藤隆夫氏につきましては、体調を崩され、学校薬剤師を辞退されました。このことに伴い、担当していた第一小学校の薬剤師に、府中市薬剤師会から赤羽トモ子氏を推薦いただきました。平成22年12月1日から第一小学校の薬剤師を赤羽トモ子氏に担当していただくものでございます。

よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

○委員長（久芳美恵子君） 事務局から説明をいただきました。何かご質問等はございますでしょうか。よろしゅうございますね。前任の方の病気ということで、交代ということでございます。

それでは、お諮りいたしますが、第27号議案「平成22年度学校薬剤師の変更について」、決定することにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（久芳美恵子君） それでは、全員異議なしでございますので、原案どおり決定いたします。よろしくどうぞお願いいたします。

議案はこの1件のみでございます。

_____ ◇ _____

◎平成22年度八ヶ岳移動教室実施報告について

○委員長（久芳美恵子君） 報告・連絡に入ります。報告・連絡の1番につきまして、学務保健課お願いいたします。

○学務保健課長補佐（中村孝一君） それでは、資料1に基づき、平成22年度の八ヶ岳移動教室実施結果についてご説明申しあげます。

小学校全22校の5年生を対象に、5月31日から10月8日の間、実施いたしました。参加人数は2,155名で、在籍数2,176名に対しまして、99%の参加率となりました。

なお、第三小学校と第四小学校は、セカンドスクールの試行として行ったものでございます。不参加の理由といたしましては、体調不良が8名と一番多く、不登校2名、発熱2名、アメリカンスクール通学2名、前籍校で参加済み2名、骨折、保護者申し出、腹痛、海外帰国中、流行性耳下腺炎等がございました。

ページをお開きください。保健室の利用状況でございますが、詳細につきましては、表のとおりでございます。

セカンドスクール試行の2校を除く20校で386名の利用がありました。平均すると1校当たり19.3名の利用でございます。セカンドスクールでは171名の利用がありました。

セカンドスクールを除きました病院利用者につきましては、山梨甲陽病院に、発熱、ぜんそく、吐き気/下腹部鈍痛等で3名、佐久総合小海分院に発熱で1名、杜の診療所にアレルギー反応、耳下腺腫脹、発熱、腹痛で4名の合計8名の利用がございました。

セカンドスクールの試行につきましては、10名の病院受診者がありまして、杜の診療所にぜんそくで2名、悪寒、発熱で合計4名、佐久総合小海分院で、呼吸苦で1名、山梨甲陽病院で右前腕擦過傷で1名、山梨県立中央病院でおう吐で1名、韮崎市立病院でおう吐で2名、腹痛で1名の合計3名の受診がございました。以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。何か報告・連絡の1番につきまして、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

○委員（北島章雄君） 八ヶ岳移動教室の参加率が100%近い数字を得て、大変喜ばしいことと思っているのですが、これは府中市の状況なんですけど、他市でもこういう事業が行われていて、どのくらいの出席率かというのはわかりますでしょうか。

○教育部参事兼学務保健課長（田中陽子君） 申し訳ございません。他市の状況はとっておりません。

○委員長（久芳美恵子君） ほかにいかがでございますでしょうか。

○委員（崎山 弘君） 先ほど、欠席の理由の中で、他校で実施というのは、途中で転校されたという意味合いなのでしょうか。

○学務保健課長補佐（中村孝一君） そうです。

○委員（崎山 弘君） その場合というのは、行ってはいけないということになっているんですか。何となく転校した学校のほうでも行かせてあげたほうがいいのか。お金の問題もあるのかもしれませんが、行ってはいけないというルールみたいなものはあるのでしょうか。

○学務保健課長補佐（中村孝一君） 行ってはいけないという規則はございませんが、前校で行っていますので、補助とかそういった形の市から支出するお金は出なくなります。そういった関係から、親御さんと相談の上、学校のほうでは、大体前校で参加していると、参加しないというケースが多い状況でございます。

○委員（崎山 弘君） むしろ新しい学校で、入ったばかりだと、行かせてあげたほうが良いような気もするんですが、確かにお金の点では、2度というのは難しいのかもしれませんが、そこら辺は、そんなに数が多いものではないので、本人の意向で参加の意図があれば、それはめったにないケース、レアケースでしょうけれども、参加を原則認めるほうが教育的にはいいんじゃないかと思えますけれども、いかがでしょうか。

○教育部参事兼学務保健課長（田中陽子君） 補助につきましては、食事代の補助なので、1人当たり1,800円程度なので、これについてはそんなに。あとはバス代とか、そういうものを市の公費で出しているのですが、それはみんなに乗ってしまえばお金はかからないということなので、お子さんが行きたければ構わないというところで、金額の補助云々ではなくて、ご家庭の事情ということ。また、転校したばかりだと、逆に友達関係がなかなかできづらい中で、200人から泊まるのが逆に保護者のほうが不安だという気持ちで出さないということがあります。ただ、毎年こういうことがあるわけではなく、今年はたまたまこういうケースがあったということで、府中市内の中で転校があったということですので、私もここ何年間、この課を担当しているのですけれども、このケースは初めてでございました。以上です。

○委員長（久芳美恵子君） それでは、1点か2点。1つは、調子が悪くなる子がどうも女の子が多そうな気がするんですね。セカンドスクールではないところの386人のうち209人が女の子、男の子が176ですから、ここはそんなに大きな差はないのですが、府中第三小学校ですと、130人のうち84人の女の子が調子悪くなっているんです。ただ、それが何とも言えないのは、四小のほうは、人数も三小よりは全校少ないということもあります。女子より男子のほうが多いということで、これは何とも言えないのですけれども、むしろ女の子のほうが強そうな感じがするんですが。全体的に見て、今までのデータをきちっと私も覚えていないのですが、女の子のほうの不調を訴えるのが多いのかどうかということが1点ですね。

それと、教えていただきたいのは、府中第三小学校の6月9日の下のほうです。「腹張」という字が書いてあって、自覚症状なしというのがあるんですね。自覚症状なしで保健の先生だと思いますが、こういう形で対応なさったのだと思うのですが、どういうふうにわかったのかなと。症状と同時に、この辺をお聞かせいただければと思います。

○教育部参事兼学務保健課長（田中陽子君） まず、1点目の男女の件なのですけれども、これについては、よくホームシックなどは、男の子のほうが多いという形で報告を受けているのですが、今回たまたま女の子が多いということで、女の子というのは、グループで1人が泣き出すとみんながシクシクしたりとか、頭が痛くなったりすると、みんなで痛くなってしまったりとか、そういう傾向があつてこういうふうになってしまったのかなと思っています。大体男女どちらが多いということは、特段男の子が多いとか、女の子が多いとかということはありませんでした。

また、6月9日の三小のお腹が張って自覚症状なしというところでは、不思議なケースだと思うのですが、これについては看護日誌から私ども拾っておりますので、細かいところまで確認してこなかったのは大変申しわけございません。もう一度確認をして、後日ご報告させていただきます。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。

ほかにかがでございましょうか。先ほど北島委員がおっしゃったように、99%という参加率で、とても喜ばしいことでございます。

ほかよろしゅうございましょうか。

それでは、報告・連絡の1番、平成22年度八ヶ岳移動教室実施報告について了承いたします。どうもありがとうございました。



◎平成22年度八ヶ岳自然教室実施報告について

○委員長（久芳美恵子君） それでは、報告・連絡の2番につきまして、同じく学務保健課お願いいたします。

○学務保健課長補佐（中村孝一君） それでは、資料2に基づきまして、平成22年度の八ヶ岳自然教室実施結果についてご説明申し上げます。

中学校全校11校の1、2年生を対象に、4月26日から9月24日の間に実施いたしました。

参加人数は1,974名で、在籍数2,015名に対しまして、98%の参加率となりました。

不参加の理由といたしましては、体調不良が31名と一番多く、長期欠席7名、不登校2名、家庭事情1名でございます。

ページをお開きください。保健室の利用状況でございますが、詳細につきましては、表のとおりでございます。11校で274名の利用がありました。平均すると1校当たり24.9名の利用でございます。

杜の診療所に、せき／咽頭痛、急性咽頭炎、両上腕発赤疹で3名、長坂中央クリニックで気管支炎1名、甲府病院、急性咽頭炎、吐き気／腹痛で2名、山梨甲陽病院に、発熱、左手首腫脹、疼痛、吐き気／腹痛で4名、塩川病院にぜんそく発作で1名、佐久総合小海分院で吐き気／後頭部打撲、右眉上擦過、右頭部打撲で3名が受診になりました。なお、杜の診療所受診の1名につきましては、点滴、内服薬処方後、薬疹で甲府市民病院に搬送されましたが、この児童につきましては、今までアレルギー等のない生徒でございました。

以上で報告を終わります。よろしく願いいたします。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。

それでは、八ヶ岳自然教室につきまして、何かご質問ございますでしょうか。

○委員（谷合隆一君） 以前聞いたことがあるのかもしれないのですが、五中だけ2学年で行っているのですが、これは何か理由があつてかということと、あと、いわゆる中1ギャップみたいなものを、八ヶ岳で中学生の厳しきみたいなものを知るということを聞くこともあるんですが、それが、例えば五中で2年生になると、多少差が出てしまうのかなということ、もしあれば教えていただきたいんですが。

○教育部参事兼学務保健課長（田中陽子君） 五中につきましては、毎年2年生で実施しております。ただし、平成23年度から八ヶ岳自然教室が、セカンドスクールの関係からこの事業がなくなりますので、今年度については2年生と1年生が参加したという形になっております。

従来は、この事業につきましては、ほとんどが2年生でやっておりました。ところが、5～6年前から徐々に1年生になっていったというのは、特に職場体験学習が2年生になってきましたので、五中を抜かした10校が1年生で実施しているという形になります。

また、中1ギャップの関係ですが、前半にやれる学校は、オリエンテーリングとか、そういう形でできますが、この事業は10月ぐらいまでやりますので、その辺のところはあまり気にしないで実施をしておりました。以上です。

○委員長（久芳美恵子君） ほかにいかがでございましょうか。

PTAの役員さんたちとの話し合いの中でも、中学の八ヶ岳がなくなることがすごく残念だというご意見が出ていたと思います。

1つ、その後の様子をお聞かせください。最後のページです。第二中学校の9月22日で男の子が佐久総合病院の小海分院を受診しております。ドクターが注意深く観察をなさいというふうにメモ書きでたぶんあったんだと思いますが、このお子さんは特にその後何か症状が出るということはありませんでしたでしょうか。

○学務保健課長補佐（中村孝一君） このお子さんについては、その後特に症状が出ているというお話は伺っておりませんが、正確な情報がないので、後ほど確認させていただきたいと思えます。

○委員長（久芳美恵子君） わかりました。ありがとうございます。

ほかにかがでございましょうか。よろしゅうございましょうか。

それでは、報告・連絡の2番、平成22年度八ヶ岳自然教室の実施報告につきまして、了承いたします。ありがとうございました。



◎平成23年度社会教育施設の臨時休館日等について

○委員長（久芳美恵子君） 次に、報告・連絡の3番でございます。文化振興課お願いいたします。

○文化振興課長兼文化財担当主幹（英 太郎君） 資料3に基づいて、社会教育施設の来年度平成23年度臨時休館日等についてご報告いたします。

各施設は数か月前より予約等が入りますので、早めにご報告申し上げます。

まず、生涯学習センターは、定例の休館日は第1月曜日、第3水曜日及びその翌日木曜日でございますが、そのほかに、記載の9月23日金曜日、2月11日土曜日が臨時休館日となります。

郷土の森博物館は、毎週月曜日の定例の休館日のほかに、記載の臨時休館日を設けます。また、7月、8月の夏休み及び2月、3月の梅まつりの時期に臨時の開館日を設けます。

次に、総合体育館及び押立体育館ほか4つの地域体育館は、第1月曜日の定例休館日のほかに、記載の臨時休館日となります。

朝日体育館は、記載のとおりでございます。

次に、図書館でございますが、中央図書館、地区図書館11館、そして、生涯学習センター図書館は、記載のとおりでございます。

なお、宮町図書館については、ふるさと府中歴史館（仮称）の新設により、休館日もその休館に合わせますので、条例の改正後に別途報告をさせていただきます。

最後に、美術館でございますが、企画展の展示替えのため、記載の臨時休館を設けます。

以上、よろしく願いいたします。

○委員長（久芳美恵子君） ご報告ありがとうございます。社会教育施設の臨時休館日等につきましてのご報告ですが、何かご質問ございますでしょうか。

臨時に開館する日を設けたのは、郷土の森博物館のみでございますね。

○文化振興課長兼文化財担当主幹（英 太郎君） 梅まつりの際に臨時の開館日を設けさせていただきます。あと、夏休みでございます。

○委員長（久芳美恵子君） この時期にこういう形でつくっていただいて、市民の方に周知していただけると、市民の方も利用が進むのではないかなと思いますが、ありがとうございます。

それでは、報告・連絡の3番、社会教育施設の臨時休館日等について、来年度でございます。それにつきまして了承いたします。よろしく願いいたします。



◎企画展「アートサイト府中2010 いきるちから」の開催について

○委員長（久芳美恵子君） 報告・連絡の4番でございます。美術館お願いいたします。

○美術館副館長（石井順子君） それでは、美術館から、お手元の展覧会資料によりまして、次回の企画展についてご報告いたします。

12月2日木曜日から平成23年3月6日の日曜日まで、企画展「アートサイト府中2010 いきるちから」を開催いたします。

インスタレーションの大巻伸嗣、絵画の木下晋、立体の菱山裕子の3人の美術家の作品により、生きていることのすばらしさを伝える展覧会です。生活や将来に不安を抱き、生きづらい時代となっている現代、人が生きる根源の姿を見つめ、命の輝きを伝える作品を展示公開いたします。

関連企画として、美術館を飛び出し、サテライト会場のフォーリスや中央図書館、生涯学習センターでの作品展示のほか、これらの会場をめぐるスタンプラリーの開催、また、街中のフォーリスけやき広場での観客参加による大量のしゃぼん玉飛ばしなど、さまざまなイベントを開催し、美術館とまちと人がつながり、生きることの原点を見つめなおす展覧会となっております。

以上、よろしく願いいたします。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。だいぶ大がかりな感じがいたしますが、ただいまの美術館のご報告に対しまして、何かご質問、ご意見ございますでしょうか。いかがでしょうか。

1点、2月20日に行われます、大量のしゃぼん玉を飛ばすというのは、市民も参加できるものでしょうか。

○美術館副館長（石井順子君） 伊勢丹フォーリスのけやき広場なのですけれども、通りがかりの人も参加ができるということで、50台ぐらいのしゃぼん玉をつくる機械がもう美術館のほうに入ってきているのですが、ものすごい数を製造するもので、そこにいる全員の方に参加していただける。ちょうど真冬の雪が降るころのしゃぼん玉飛ばしというのはどういう状況になるのか、非常に興味のあるところなのですけれども、この方は有名な方で、大巻さんも含めて、いろいろな方、どこかでご覧になる方は多いですが、日本の中でもいろいろところでやっていたらっしゃるという方なので、大勢の人の目の前でやっただけという形になります。

○委員長（久芳美恵子君） それは楽しみですね。日曜の午後ですから、たぶんあの辺は多くの方がいらっしゃるかと思いますが、大雪など降らないことを祈っております。美術館だけじゃなくて、まちに出ていってというのは、本当にいい企画だと思います。所々に街角美術館というのはありますよね。そこにいろいろ展示されているのを私も時々楽しみにして見ております。

よろしゅうございましょうか。どうぞ。

○委員（谷合隆一君） パンフレットの裏のページの利部志穂さん、こちらの方の公開制作で、制作日時が全部で13日間あるようなのですが、これは毎回その日その日で違う作品を公開して制作していただけるということなんでしょうか。

○美術館副館長（石井順子君） 作品を最後までつくり上げていく過程を見るという形になります。実際に今この方は、いろいろな物をそこに置きながらつくり上げていくという状況になるので、毎回違うというよりも、最終目的までのいろいろなものが入っていくという状況になりますので、今までもそういう形のものが多いのですが、毎回全然違うものをやるということではなく、過程をご覧いただくという形になります。

○委員（谷合隆一君） それでは、一つの作品をこの期間につくり上げていくということでもいいですか。ということは、見に行くたびに、だんだんできていくというようなことですね。ありがとうございます。

○委員長（久芳美恵子君） ほかにいかがでございましょうか。

よろしゅうございましょうか。

それでは、報告・連絡の4番、企画展「アートサイト府中2010いきるちから」の開催について、了承いたします。

その他、何かございますでしょうか。

ございませんようですので、教育委員の報告にまいります。

◇

◎教育委員報告

○委員長（久芳美恵子君） 教育委員の報告をお願いいたします。

○委員（谷合隆一君） 谷合から報告します。

10月22日、府中第十中学校の創立30周年記念式典に参加いたしました。

大変生徒たちもピシッとして、開会前も微動だにしない感じで、すごくしっかりしているなと思いました。むしろ、来賓の私たちのほうが騒がしかったのではないかなというところが気になります。本当に30年、わりと新しい学校だななんて思っていたのですけれども、30年たったのだなということをつくづく感じました。

翌日23日、午前中に、府中本町駅前の遺跡調査説明会、これは第2回目ですか、行ってきました。大変貴重な遺構や出土品を見せていただきまして、この場所は土地の取得が決まりまして、公的にも管理ができるようになりましたけれども、いつまでも遺構をながめて感心ばかりもしてられませんので、今後のこの土地の全体の利用には、十分に地域住民も巻き込んで議論をしていただいて、まさに温故知新となるような活用方法を見いだしていただければなと思います。

その足で給食センターのほうへ向かいまして、給食展と大給食会に参加しました。この日のメニューは、チキングラタンの献立とビビンバの献立がありまして、私はビビンバのほうを選んでいただいたのですが、わかめスープとブドウと牛乳がセットになっておりました。大変おいしくいただきました。ありがとうございます。一昨年でしたか、食べたものがあまりおいしくなくて、この場でも申し上げた記憶があるのですが、ずいぶん改善されたなと思います。

私の考えなのですが、日本というのは、大量の食料を輸入して、大量の廃棄もしているという国なのですが、発展途上の国などでは全く考えられないんですけれども、私は、人間

にとって真の豊かさというのは、目の前においしい食べ物がたくさん並んでいるということが本当の豊かさなんじゃないかなと思っています。そうあるべきだとも思っていますので、ぜひ給食でもおいしいものをお腹いっぱい食べて、そして残らないということを目指していただきたいなと思いました。

その日の午後に、中学校の連合音楽祭に行きまして、そういったわけで、前半の演奏は残念ながら聞けなかったのですが、聞かせていただいた後半の各団体の演奏は、それぞれ個性があってすばらしかったと思います。演奏、すばらしかったのですけれども、後半に連合の合唱や合奏を聞かせていただきまして、改めてこのシステムというのでしょうか、自分の通っている学校に部活動がないとか、部活動をやり足りなくて、もっとほかの子たちとも一緒にやりたいというような願いがかなうような場所がつくられているのだなということ、大変すばらしいことだなと思いました。

既にあるのかもしれないのですけれども、私が知らないだけかもしれないのですが、こういったシステムを全市でほかの部活動についてもそんなような形がとれたら、本当によりよい中学校生活を送れるんじゃないかなと思いました。いろいろな事情で、各校で部活動には課題があると思いますので、どこかがそういった受け皿をつくってくれれば、参加しやすい子どもたちが増えるのではないかなということをおもいました。

11月2日、若松小学校の算数科の研究発表会に行きました。授業も見せていただいて、研究主題は、自ら考え、楽しく学ぶ子どもの育成、算数科の授業を通してということで、サブテーマなのでしょうか、数学的な考え方を活用し、表現し、学び合うということで研究が進められて、発表を聞いたんですが、その日の講演で、常葉学園大学教授で黒澤俊二先生、演題は「子どもの学びを深める算数授業」ということとお話をさせていただいたんですが、算数・数学に関しては、私はどうしても最初に数字が浮かんでしまっていたんですけれども、この先生のお話を聞いて、数学的な考え方ということを改めて深く考えさせられました。数学的な考え方というのがどれだけ人間教育につながることであったということを改めて実感した次第です。特に、日本人には弱い分野だったのかもしれないのですけれども、理論的に話をするという、本当は国語とか道徳とかで学ぶのではないのかなと思ったことが、数学で学べたんだということを改めて知らされました。大変貴重なお話を聞けたと思います。

11月6日、「府中の教育を語る会」という会議、生涯学習センターに伺いまして聞きました。昨年と同じだと思いますが、環境問題を取り上げた事例発表会というもので、環境問題というのは人類に限らず地球規模で最優先課題であるということは感じておりますし、環境教育というのは本当に大切なものだと思いますけれども、ちょっと違和感を感じたのは「府中の教育を語る会」という会の名称にとってどうなのかなとちょっとおもいました。府中の教育をもっと語る会であるべきかなと思いました。環境教育は別でも、そういう事例発表会をつくっていいと思いますけれども、「府中の教育を語る会」という会の名称のときには、何か府中の教育はこんなふうになったらいいとか、例えば、府中のまちづくりを中学生に考えてもらおうとか、そんな会議になったら楽しいのではないかなと思いました。これは感想でございます。

11月11日、教育委員訪問で第八中学校と第五小学校に伺いました。

第八中学校で一番印象に残っておりますのは、不登校の生徒が近年減ってきているということで、ここは注目すべき点だなと思いました。単純に不登校の多い学年が卒業して、新しく入

って減っていったというのであれば、わかりづらいのですけれども、もし不登校だった生徒が学校に来るようになったということがあるとすれば、すごく先生方の一人一人の生徒に対する対応というのがすばらしいものなんだろうなと思いますし、もし機会があれば、出てくるようになった生徒に、なぜ学校に行ってみようと思ったのか、聞いてみたいなと思いました。

五小では、目指す学校像とか児童像、教職員像が明確に打ち出されていて、校内でのOJT体制がしっかりと組織化されて、組織図になっておりまして、各教員の役割が大変はっきりしていて、教員は自分が何をすればいいのかということがわかりやすいだろうなと思いました。大変すばらしいことだと思いました。

その後に小学校の演劇観賞教室。幕があくまでは本当ににぎやかな会場だったのですけれども、指導が行き届いておりまして、幕があいて始まりましたら、子どもたちもピタッと話をやめて、前を向いて観賞しておりました。楽しい劇だったので、おもしろいところは爆笑しておりましたし、若干最後のほうは飽きてきちゃったかなという感もありましたけれども、私も見ていておもしろかったし、特によかったのは、部分的にはマイクで拾っていましたが、基本的に肉声だったので、静かにしていないと後ろのほうはたぶん聞こえないのだろうなと思いましたけれども、音響のよさもあってか、静かにしていれば十分に後ろまで声が聞こえて、生の声で演劇を楽しめたのではないかなと思いました。以上です。

○委員(崎山 弘君) では、崎山から報告いたします。

この間、秋はいろいろ行事が多くて、周年行事、研究発表会、あるいは府中の教育を語る会、教育委員訪問もあるわけですが、ほかの委員の方と重複しないという点で、南町小学校の研究発表会について報告させていただきます。

南町小学校は、テーマが「読もう・調べよう・伝えよう」で読書ということがメインのテーマになっているわけですが、実際、私も子どものころ、読書が嫌いだった人間なのですが、読書感想文が嫌いだったのですけれども、それを言ったら、指導の先生が、感想文が嫌いで読書をしないというのは本末転倒ですと言われて、確かにそうだと思います。

この研究を通して、南町小学校では、読書が好きという人が70%から88%に増えたという、これはすばらしいことだと思います。読書というのは、キーワードにも書かれているのですけれども、読む力をつける、言葉の力をつけるというのに非常に有効であることは十分私も承知しております。ですから、どんな形であれ、読書が好きになるということは、その子の、長い目で見た成長に非常に役立つことだと思いますので、今回の研究発表も非常に良かったと思います。

また、授業も非常に充実しておりました。私は拝見しておりまして、一つの教室を短時間で出るのが忍びないというふうに、ほとんどの教室でそう思いました。特に、高学年のほうでは、図書資料の活用方法というものを勉強しておりました。今時、中学生ぐらいになると、何か調べようという、すぐインターネットで検索という形をやってしまう子が多いのですけれども、それではやはりだめなので、こういうのを小学生ぐらいのうちに、小学生高学年で知っていて、インターネットを使うならまだいいと思うんですけれども、初めからグーグルとかヤフーで検索して、コピー・アンド・ペーストで文章をつくってしまうということをやってしまうと、これから先行き暗いわけですが、今回は読書の、図書資料の活用のよさというのをしっかり学習しているところがすばらしいと思いました。

講演は、「ぐりとぐら」シリーズの著者の中川李枝子先生です。テーマが「読書の楽しみ」ということなのですけれども、この人は戦時中の方なので、本がなかった。渴望していたわけですね。そういうところにわざわざある本を探すようにして読んでいたという、そういう形で読書が好きになって、非常によかったのです。だから、それは今の子どもたちには当てはまらないのですけれども、言葉の端々にいろいろおもしろい表現がされていました。例えば、印象に残ったのは、「本は心の避難場所」という表現がありました。当然、戦争のころなので、殺伐とした空気もあったのだと思いますが、心の避難場所になっていたという、それはすばらしいことで、今の子どもたちにもそういうことが当てはまるのではないかと思います。

また、読書とは関係ないのですけれども、保育園児は、小学校に入るのをすごく楽しみに待っているんだという一言が非常に印象的でした。今時、子どもたちが学校に行くことが楽しいのだということを、周りの大人がそういうことを言っていないのではないかなと思います。今度、学校に上がるんだよね、すごいよね、偉いよねというふうに隣のおじさんとか、周りの人が子どもたちに話しかけたり、すごく学校はすばらしいものだと子どもたちが大人の言葉を借りて知っていくという流れがあって、学校というのはすばらしいというのを子どもたちが感じるのだと思います。最近、学校というのには、楽しく行っている人もいますが、そうじゃない人もちょこちょこいるのは事実ですが、その中には、周りの大人が学校に対して、最近の言葉で言うと、リスペクトというか、敬意を払うとか、学校はすばらしいものだと子どもたちに伝えていないのがその責任の一端なのではないかというふうに、今回の講演を聞いて感じた次第です。以上です。

○委員（糸満純一郎君） それでは、糸満から報告させていただきます。

大半の行事が前お二方と重複するものですから、ごくごく簡単に報告をさせていただきます。

10月22日の金曜日は、十中の30周年記念行事に参加をいたしました。最後の全員合唱が本当にすばしくて、指導の先生も優れているし、子どもたちも立派だったと感じました。

10月23日の土曜日ですが、晴天に恵まれて、午前中、六小の運動会に行っていました。子どもが大変多いというのが印象なのですが、今年から南側の都有地が校庭として使えるようになりましたので、幾らか緩和されたのかなという感想をもちました。

同じ23日にお昼前に給食展に参りまして、天候に恵まれたせいか、大勢の人たちでにぎわっておりまして、給食もおいしくいただきました。

10月29日の金曜日は、白小の40周年記念式典ということで、この夏休みに芝生化をいたしまして、駐車場がどうかという心配をいたしておりましたが、混乱もなくスムーズな進行ができた。また、当日は商工会議所の40周年記念事業とちょうどバッティングしていたのですが、来賓の方々も手分けをしていただいて、こちらにも来ていただきましたので、安心をいたしました。

11月2日は若松小学校の研究発表会で、算数科の授業ということで、大変工夫された授業を拝見して、さすが若松小学校だなという感想を持ちました。

その翌日の11月3日の国司パレードに参加させていただきました。国司の後ろにつき従う役人の役割を果たしたのですけれども、当日、府中の小学生を中心とした子どもたちも参加しておりましたが、ちょうど隊列の一番後ろに、尻尾になってしまったものですから、来年あたり、もし配慮していただいて、前のほうにさせていただければありがたいなという感想

を持ちました。

11月5日の金曜日は、本宿小学校の40周年に参加いたしました。たまたまご都合で参加できなかった第2代の校長先生を除いて、初代から現在まで、歴代の校長先生が並ばれたので、本当に40周年の歴史というものを先生方の顔を拝見して感じた次第でございます。

11月6日の土曜日は、府中の教育を語る会で、昨年に引き続き、環境問題の取り組みということで、子どもたちが工夫された研究発表を緊張しながらやっていたのをほほえましく拝見させていただきました。

同じ日の夜ですけれども、府中国際友好交流会の派遣生の報告会に参加いたしました。そのとき、その前日に本宿小学校の40周年があって、ウィーンの小学校との交流があるので、向こうからも丁寧な祝電をいただきましたよ。府中でも小学校、中学校のそういう形でウィーンとの交流を図っておりますというようなお話をその会場でさせていただいたところでございます。

11月7日の日曜日は、市民体育大会の閉会式が行われました。開会式も含めてですが、非常に組織立った運営がなされておまして、他市でもないような府中市のそういった組織力というものを感じた次第でございます。

11月11日木曜日は教育委員会訪問で八中と五小を回ってまいりました。それぞれ活発に授業が展開されておりました。

その後、先ほどご報告ありましたとおり、小学校の演劇観賞教室に行きましたけれども、舞台が非常に簡素で、1つの舞台を使って、いろいろな場面、全部それでやってしまう。少し岩のハリボテは動かしたようですけれども、ほとんどそこでやってしまう。白い馬が空を飛ぶというのも、肩に手を載せて、空飛ぶ馬に乗っているという表現があったのですけれども、我々から見ると、ちょっと荒唐無稽な感じがするんですけれども、子どもたちの想像力のほうがみずみずしくて豊かなのかなと思うのは、そういうのでみんな納得しているのですね。私なんかは、あれ、何しているところだろうと逆に思っちゃったのですけれども、子どもは説明しなくてもそれでわかるということで、子どものほうが鋭いなという印象を持ちました。

11月12日の金曜日は、南町小学校の研究発表会。読書ということで、今、ご報告ございましたけれども、他県からも大勢の方が来場されまして、珍しくといたしますか、体育館いっぱいにお客さんが見えておまして、大変うれしく感じた次第です。

私のほうからは以上でございます。

○委員（北島章雄君） 北島より報告させていただきます。

私も各委員とバッティングをしておるのですが、10月22日、29日、11月5日の周年行事、第十中の30周年、白糸台の40周年、本宿小の40周年に出席いたしました。

それぞれの学校も多くのPTAの方々が一生涯懸命お手伝いされておられまして、式も粛々と盛大に行われました。

十中は、谷合委員がおっしゃったとおり、校歌の合唱がとてもよかったと思えました。

また、白糸台は、和太鼓クラブが有名ですから、和太鼓の響きが体育館の中に心地よく響いておりました。

本宿小は、6年生が「大地讃頌」を歌ったのです。今までずっと中学生で聞いていたのですけれども、小学生が「大地讃頌」を歌っていたので、非常に新しく聞いたような感じがいたし

ました。

10月23日、本町遺跡発掘現場説明会、谷合委員と共に参りました。古代から中世のものなどが展示され、市民の関心の高さに、これはまたいいなと。国分寺のほうでも何か施設ができて、とてもその施設が有効に、また、大勢の方々が見学に来られているという面が、読売新聞かな、出ていたのですけれども、今後の活用を私も期待したいと思います。

また、その後、給食展・大試食会に参加いたしました。私もビビンバを食べまして、とてもおいしく食べさせていただきました。

また、その後、中学校の連合音楽祭に参りまして、一生懸命演奏している生徒の音色を聞きまして、とても感心し、心穏やかにいたしました。

11月2日の若松小学校研究発表会、常葉学園の黒澤俊二先生が、たのしくという字が「愉快」の「愉」を使った字を使っておりました。「楽」という字は、騒がしくにぎやかしくするという意味合いかなと思うのですけれども、愉快の「愉」を使うことによって、心のしこりが取れてたのしくなるというような意味合いとおっしゃっておりました。また、講演のほうも、愉快と言っては失礼になってしまうかもしれませんが、たのしく聞かせていただきました。

11月11日の学校訪問、第八中学校と第五小学校に行きまして参りました。気づいたことなのですが、中学校は暗いせいなのか、蛍光灯がついていなかったりしていると、廊下がちょっと暗く感じました。そして、授業をしているのですから、昼間、蛍光灯をつけるか、明るくしていただいたらなと思いました。

五小のほうでは、1年2組の新しい担任とお聞きしたのですけれども、子どもたちが自由にとか、規律をとれていなくて、授業を行っているところを見させていただいたんですね。三田村校長先生がわざわざそこを見せたということは、自信がおありになって見せているのかなと。これからの先生のご指導に期待したいところでございます。

演劇教室、私も行って参りました。始まる前の騒がしき、こんなにうるさくて劇を見れるのかなという感じがしたのですけれども、劇が始まるとシーンとしまして、終わったら生徒たちの盛大な拍手で、とてもよかったのではないかなと思います。以上です。

○委員長（久芳美恵子君） それでは、久芳よりご報告いたします。

周年行事は大体皆様と同じですが、私は10月22日の十中の30周年、11月5日の本宿小の40周年に参加させていただきました。

ご報告にもありましたように、十中、生徒たちは少ないわけですが、凛としていましたし、全員での合唱は大変すばらしいものでした。

本宿小40周年、糸満委員からのご報告ありましたように、初代の方から現在まで、2代の方を除いてそろいまして、初代の方はおそらく90歳を超えていらっしゃると思うんですね。私に「自分が初代なんですよ」とおっしゃっていただきまして、本当にご健康を保っていただいて、50周年のときにまたいらしていただくとうれしいかなと思ってしまいました。

本宿小の子どもたちの合唱、それから、演奏もとてもすばしかったです。

11月7日、市民体育大会の秋季大会の閉会式、総合体育館で行われましたが、問題となっておりました、右手を斜め上に上げてあいさつをするという敬礼式のものほとんどございまして、上げていてもハンカチを振ったり、帽子を振ったりと、それぞれのグループが非常に工夫していらっしゃるというのがよくわかりました。1か月半にわたって、市民の方が多く

の競技に参加していただいたことをうれしく思いました。

11月11日木曜日の夕方、府中本町駅西側の階段下にセブンイレブンがあります。そこに「中学生職業体験中」というのぼりがあり、以前からとても気になっていたもので、思い切って入りまして、店長さんに伺いました。今年は中学生、男の子2人を引き受けているということでした。そのときには、店長さんが1人の男の子にレジの打ち方を教えていて、それをもう一人の子が緊張した感じで、普段学校ではちょっと見られないような表情をして対応していました。お客さんたちも並んでいたもので、それ以上はお聞きできなかったのですが、本当に協力してくださる地域の方々に感謝をいたしました。

11月12日が先ほど来ご報告ございました、読書がテーマの南町小学校の研究発表会。私は所用がありまして、授業のみでございましたけれども、なかよし学級と1年生と6年生とを早足で見せていただきました。

なかよし学級のあるグループでは、絵本を、出てくるものの役割を当ててせりふを言うという形で絵本を進行していたのですが、せりふがとても上手な子がいました。どうのご指導をなさっているのかなと思ったのですが、その先生が子どもたちにとっても配慮しているというのは、次の言葉でわかると思うのです。ある子が本当はナレーターをやりたいのに、ナレーターの役が彼の読みの力では無理だったのでしょう。それで、ほかの動物の役割をしたのですが、そのとき先生は、授業の中で、「何々ちゃんはナレーターをやりたいけど、今日は、ウサギだったかな、それを頑張ってやってくれるそうです。」と言って、ほかの子にも紹介していました。ですから、本人も納得して張り切ってやっていました。子どものやる気を引き出す先生のことばだと思いました。

1年生、6年生もどのクラスも非常に子どもたちが落ち着いて学習に参加していたというのが印象でございます。講演「ぐりとぐら」の中川李枝子さん、お話を聞きたかったのですが、大変残念でございましたが、先ほど崎山委員のほうからお話をうかがって、ああ、よかったなと思いました。以上でございます。

それでは、ここで学務保健課より報告がございますので、お願いします。

○学務保健課長補佐（中村孝一君） 先ほどの自然教室のご質問の件でございますが、9月22日の六中の児童でございますけれども、首から上のことということで病院を受診いたしましたが、自然教室終了後、元気に学校に登校しているということでございまして、自然教室の擦過によりますそのものは、もう症状等というのは出ておりません。以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） 早速調べていただきました。本当にありがとうございました。

それでは、これで平成22年第11回府中市教育委員会定例会を閉会いたします。



午後2時28分閉会